

令和 6 年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校の教育目標「自立と社会参加に必要な力を身に付け、社会の一員として健康で心豊かに生きる人を育てる」の達成を目指すとともに、本校の現状と課題を踏まえ、以下の3項目を重点課題として取り組みました。それぞれ設定した目標について、ほぼ達成することができました。

(1) 健康で心が豊かになる活動

中学部では、生徒が運動の楽しさを実感し、心身の健康への意識を高める取組を進めた。外部講師を招いた研修会で得た知見を基に体力づくりや体育の計画や内容の見直しを図り、授業改善を進めたことにより、生徒が楽しそうな表情で意欲的に運動に取り組む姿が多くみられるようになった。また、長期休業に合わせて運動動画の教材を作成して学校ホームページに掲載する等、生徒が家庭で活用できる教材づくりに取り組み、家庭での運動習慣づくりを図った。事後アンケートから、多くの生徒が長期休業中に家庭で主体的に運動を行ったという結果が得られた。

(2) 地域人材を活用した作業学習を通して、地域社会と積極的に関わり、社会生活で自分の力を発揮する態度の育成

高等部では、各作業班に地域等の外部人材を講師に迎え、講話や実習を通して専門的なスキル等を学び、地域の特色を生かした製品作り等の実習を行ったり、地域の老人保健施設等での介護実習等を行ったりした。各作業班では、講師から学んだことを、新商品の開発、手順表の作成に活用し、学習発表会の高等部作業製品販売での新製品の販売や接客態度の向上に生かした。また、実習を通して、生徒が自分の得意なこと、不得意なことを知り、就業体験先の選択等に生かす姿がみられた。

(3) 児童生徒会活動の活性化と主体的に取り組むことができる活動の推進

委員会活動で、児童生徒が自分たちの取り組む委員会活動の役割や意味について考え、話し合う機会を十分に設けたことで、意欲的に委員会活動に取り組む児童生徒の姿が多く見られるようになった。また、2月に全校集会を開催し、各委員会が活動内容、意味や役割をまとめ、全校児童生徒に発表することを通して、全校でよりよい学校生活を築く取組を実践していることを互いに確認することができた。

7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 児童生徒が運動の楽しさを味わうことを通してやる気を高め、主体的に体力を高める活動の推進を継続していくとともに、食事や睡眠、仲間と関わる、好きなことがあるなど、様々な視点から、健康で心が豊かになる学びや活動を考え、学校卒業後の充実した社会生活につながる取組を推進していきたい。
- (2) 学校の取組を積極的に地域に発信するとともに、地域や保護者、関係事業所等と一層の連携を図り、児童生徒が地域に溶け込みやすい環境づくりに努めたい。
- (3) 児童生徒が、より良い学校生活に向けた様々な活動の意味を理解し、自分の役割や責任を意識するとともに仲間と関わりながら活動に取り組むことにより、児童生徒が社会で発揮できる力の育成に努めていきたい。また、日頃の活動と地域の活動の重なりを広げることを通して、社会生活を楽しみ、豊かにすることを考える機会を設けていきたい。

8 学校アクションプラン

令和6年度 となみ総合支援学校アクションプランー1ー＜中学部＞		
重点項目	学習活動	
重点課題	健康で心が豊かになる活動	
現 状	中学部では、火曜日から金曜日までの1限目後半を体育の授業とし、体力づくりを行っている。体力づくりでは、令和5年度に様々な動きの経験不足や単調な活動への慣れなどから運動の効果を得にくい状態で運動を続けていることを課題として外部講師による研修を実施し、『生徒が主体的に取り組める体力づくり』を目指して内容の見直しを図った。講師の助言を基に、新たな運動プログラムに取り組み、生徒が運動に取り組みやすいグループ分けや運動課題の検定日を設けてレベルアップ表で生徒自身が伸びを感じられるように工夫した。 体力づくりに関する教員アンケートでは、生徒の取り組み方や意識が変わったとの意見が多かったが、一方で、生徒の意欲が高まらなかったという意見もあった。また、運動の楽しさの実感や体力づくりの目的意識の向上、健康への意識付け、家庭での運動習慣の確立等が課題として挙げられている。	
達成目標 方 策	①生徒が主体的に取り組める運動やトレーニングの内容などを学ぶ研修会の実施	②生徒が家庭で利用できるチェック表や手順表等の教材づくり
	年4回以上	年2回（夏季休業前及び冬季休業前）
方 策	1 学期	・体力づくりや体育の計画に基づき、主体的に取り組める運動の指導を行う。 ・生徒への直接指導も含め、運動に関する研修会を行う。 研修会① ・家庭での運動習慣づくりに向けた教材づくり（夏季に生徒が家庭で利用できるチェック表や手順表等の教材を検討・作成） 家庭での運動教材の提案①
	夏季休業	・1学期の体力づくりや体育の見直し、2学期の計画の検討 研修会②
	2 学期	・夏季休業中の家庭での取組の確認を行う。（休業中の家庭での運動実施率の確認） ・見直しを図った計画に基づき、主体的に取り組める運動の指導を行う。 ・研修会②以降の取組を踏まえ、運動に関する研修会を行う。 研修会③ ・家庭での運動習慣づくりに向けた教材づくり（冬季に生徒が家庭で利用できるチェック表や手順表等の教材を検討・作成） 家庭での運動教材の提案②
	冬季休業	・2学期の体力づくりや体育の見直し、3学期の計画の検討 研修会④
	3 学期	・冬季休業中の家庭での取組の確認を行う。（休業中の家庭での運動実施率の確認）
具体的な 取組状況	①研修会の実施：教員対象に4回実施 ア 研修会①②③（6～8月） ・発達発育と運動、コーチング法 他 イ 研修会④（11月） ・運動意欲、受容の大切さ 他	②家庭での運動教材の提案 ア 運動チェック表の作成、配付 イ 保護者アンケートの実施 ウ 体力づくりのプログラム見直し エ 長期休業用の運動動画の作成、HPへの掲載
評 価	① A	② A
	・研修会①～③は、日本サッカー協会障害者サッカー指導者養成担当者による講義及び実技、④では富山国際大学講師による生徒への直接指導及び教員との懇談を実施した。 ・事後アンケートでは、多くの教員が体力向上の理論の理解を深めたと回答した。また、研修を踏まえた体力づくり等の実践により、生徒が楽しそうな表情で意欲的に運動に取り組む姿がみられた。	・アにより、夏季休業中、85%以上の生徒が、ラジオ体操や散歩、ストレッチ等の運動を週1回から概ね毎日行っていた。 ・夏季休業中の動画のHPへの掲載に加え、イの意見を参考に、冬季休業中にも運動動画を作成し、合計5本の動画をHPに掲載した。また、生徒や保護者に運動動画のHPへの掲載を周知し、家庭での運動を促した結果、冬季休業中のHPへのアクセス数が増加した。冬期休業中、家庭で80%近くの生徒が運動を行った。
学 校 関 係 者 の 意 見	・将来の就労に向けて、体力を付けることは大切である。ラジオ体操を実施している会社もある ・日常的に運動する習慣が身に付くとよい。そのために本人のやる気を育てることが必要である。 ・運動の楽しさを経験したり、好きなことや得意なことを身に付けたりすることもよい。将来の生活でも運動が社会参加につながり、人と関わることにもつながっていく。	
次年度へ 向けての 課題	学校で運動に主体的に取り組む、楽しむ姿が見られるようになった。一方で、家庭での日常的な運動につなげることは難しかった。運動だけでなく、食事や睡眠、仲間がいること、好きなことがあることなど、様々な視点から心が豊かになる活動を考え、意義や目的も含めて学ぶことができるよう、各教科等の学習を関連付けながら指導や支援に当たりたい。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和6年度 となみ総合支援学校アクションプラン - 3 - <生徒指導部>		
重点項目	特別活動	
重点課題	児童生徒会活動の活性化と主体的に取り組むことができる活動の推進	
現 状	本校には、小学部、中学部、高等部の3つの学部がある。新型コロナウイルス感染症の流行前には、運動会や学習発表会など3つの学部の児童生徒と一緒に活動する機会があったが、現在では学部の枠を超えて活動するのは委員会活動のみとなっている。また、以前は学習発表会などの学校行事に地域の方に来校していただき、児童生徒の活動をとおして、地域と関わる機会があったが、コロナ過でそれもなくなっている。 これらのことから、3つの学部の児童生徒が会して自分たちが取り組んでいる活動の意味を考えたり、より広い範囲に活動を広げるための方法を話し合ったりすることで、学校の取り組みを家庭や地域につなげるきっかけとしていきたい。また、児童生徒会活動が地域との関わりを深める活動を進めるには、どのような活動ややり方をすればよいかを考える機会を作る中で、児童生徒が主体的に考え、活動を実践する場面を設定したい。 その上で、日頃の生活と地域の生活との重なりを広げ、より社会生活を楽しみ、豊かにするためにどうすればよいかを考える機会としていきたい。	
達成目標	① 委員会活動の話し合い活動 年5回以上	② 委員会活動発表会の実施 年1回
方 策	・各種委員会活動の意味や地域に活動を広げるために課題を設定した話し合いを仕組み、活動を推進する。 ・主体的な取組や結果を可視化して共有し、児童生徒の活動を効果的に推進する。	・委員会活動の取組を校内放送や掲示物で随時紹介するとともに、児童生徒会が中心となって委員会活動発表会を企画・運営して実施する。
具体的な取組状況	・委員会活動の中で、それぞれの委員会での活動の意味についての話し合いを行った。自分たちが取り組む委員会活動の役割や意味について児童生徒が考える機会となり、今まで以上に活動に積極的に取り組む様子が見られた。 ・委員会での活動を「学校以外の場所での活動に広げて行くにはどうすればよいか」と児童生徒に投げかけてみたが、児童生徒からは意見が出なかった。 ・児童生徒会の執行部が中心となりそれぞれが意見を出し合い、校内にあいさつの輪を広げるための手立てとして、より効果的な場所での実施やあいさつ運動の参加の呼びかけを行うなど、自分たちで考えたことを積極的に実践する様子が見られた。 ・2学期から3学期にかけて、各委員会の中で、自分たちの活動を委員会内で発表しあい、活動の意味を再確認するとともに委員会が果たした役割について理解を深める機会を持った。 ・2月7日（金）に全校集会を開催し、各委員会の活動内容とその意味や役割について全校児童生徒に発表することを通して、全校でよりよい学校生活を築く取組を実践していることを互いに確認することができた。	
評 価	① B	② A
学 校 関 係 者 の 意 見	・話し合いの中で他の人の意見を聞くことができる力は、卒業後の生活でも必要な力だと思う。 ・いろいろな人と話をする中で、自分とは違う考えにふれ新しい発想にたどり着くこともありコミュニケーションによる課題解決の取り組みが大切だと思う。 ・あいさつ運動はよい活動だと思う。自分なりのあいさつの仕方を身に付けることは地域生活につながる活動になっていくと思う。	
次年度へ向けての課題	・いろいろな場面で自分の意見をしっかりと相手に伝えたり相手の意見を聞いたりできるなるために、今後も話し合いの機会を設定していくことが必要であると考え。 ・児童生徒が、活動の意味を理解した上で積極的にかかわり、自分の役割や責任を果たしながら活動する委員会になるように支援していく必要があると考え。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)